

だれもが充実したいのちを燃やして生きることができるように!

わたしたちは、予防医学を通じて人々の「生涯健康」「健康寿命の延伸」をめざし、健康と福祉の向上に努めることにより、社会に貢献してまいります。

よぼう医学

THE NEWS OF HEALTH SERVICE

2012(平成24)年9月15日 第467号

(公財)東京都予防医学協会
予防医学事業中央会東京都支部
発行人 北川照男・編集人 山内邦昭

発行所 〒162-8402
東京都新宿区市谷砂土町1-2
保健会館 電話 03-3269-1131
http://www.yobouigaku-tokyo.or.jp

毎月15日発行



今月の主な紙面

- (1面) ●「がん対策推進基本計画」(2012~2017年度)が新たにスタート
- 第20回日本がん検診・診断学会総会
がん検診の近未来像めぐって討議
- (2・3面(見開き))
- 新連載 予防医学事業のこれまでとこれから 第1回
- 話題 上手につき合って一病息災——高血圧
- 連載 健康づくり・健康増進を支援するページ
働くシニア! 応援シリーズ 第3回:保健師/管理栄養士/健康運動指導士のコラム
- (4面) ●第244回ヘルスケア研修会 生活習慣病と睡眠障害
- 「東京都予防医学協会賞」PKU親の会で表彰
- 連載 予防医学相談室より 第2回
- 東京都のがん検診受診率向上普及啓発事業に協力
一本会

「がん対策推進基本計画」 (2012~2017年度)が新たにスタート

わが国のがん対策を総合的かつ計画的に推進することを目的とした「がん対策推進基本計画」が、2007年の施行から5年が経過し、最初の見直しが行われた。がんになる人が増え続ける中、がんを抱える人たちのQOL(生活の質)をどのように支えるかが大きな課題となっている。こうした現状を踏まえ、今年6月にスタートした新しい基本計画では、がん患者やがん経験者の視点に立った施策が新たに盛り込まれた。また予防対策では、喫煙率や受動喫煙対策に初めて数値目標が明示された。

働く世代や小児への対策を充実 喫煙対策には初の数値目標も

新しいがん対策推進基本計画(新計画)では、2007年に始まった前計画によって、がん診療連携拠点病院の整備や、がんの年齢調整死亡率の減少など一定の成果が上がったとする一方、がん医療や支援で地域格差や施設間格差が生じているなどの問題を指摘。「3年以内に拠点病院の在り方を検討し、5年以内に機能を充実させる」としている。

さらに、がん医療を専門的に行う医療従事者を養成すると共に、チーム医療を推進し、放射線療法、化学療法、手術療法やこれらを組み合わせた集学的治療の質の向上を目指すとして、「量から質」への転換を図る考えだ。

また、がん患者とその家族の精神的、社会的な苦痛を和らげるために、新たに「がんになっても安心して暮らせる社会の構築」を全体目標として掲げ、患者らを社会全体で

支える取り組みを実施する。わが国では、がんが40代から死因の第1位となり、高齢者だけでなく働く世代にとっても大きな問題となっている。また、小児においても、がんが病死原因の第1位である。このため、重点的に取り組むべき課題にも、新たに「医療機関に届け出の義務が

働く世代のがん検診受診率の向上④小児がん拠点病院の整備などを推進する。

一方、エビデンスに基づいたがん対策や質の高いがん治療、がんに関する正確な情報提供などを行う上で必要とされるがん登録については、「医療機関に届け出の義務が

なく、調査方法にもばらつきがあることから、精度が不十分でデータの活用が進んでいない」として、新計画では「5年以内がん登録の法制化も含めた検討を行い、がん登録の精度を向上させる」としている。

また、予防対策のうち、喫煙率に関しては、成人喫煙率が19.5%(10年)と減少傾向にあるものの、男性の喫煙率は32.2%と諸外国に比べて依然高い水準にあることから、「22年までに成人喫煙率を12%、未成年の喫煙率0%」を目指す。受動喫煙については、「行政機関及び医療機関0%、家庭3%、飲食店15%、職場は20年までに受動喫煙のない環境を実現する」と、初めて具体的な数値が

目標として掲げられた。20~30%台に低迷しているがん検診受診率については、前計画の目標を据え置き「5年以内に50%(胃、肺、大腸は当面40%)を達成する」とし、検診受診手続きの簡便化や効果的な受診勧奨方法の開発、職域のがん検診との連携など、より効果的、効率的な施策を検討していく。

この他、がんの教育・普及啓発の取り組みに関しては、「子どもの頃からのがん教育の在り方を検討し、健康教育の中で、がん教育を推進する」ことが盛り込まれた。

今後は、新計画に基づき、がん患者を含めた国民が、がんを知り、がん向き合い、がんに向き合える社会の実現を目指す。

第20回日本がん検診・診断学会総会 がん検診の近未来像めぐって討議

7月14日、15日の両日、第20回日本がん検診・診断学会(会長・池田徳彦東京医科大学教授)が、「がん検診・

診断学の新たな局面」をテーマに、東京・新宿区で開催された。

開会の挨拶で池田会長は、「私たちは、社会の要望に応じて質の高い検診を行うと共に、科学的根拠に基づいた検診の効率化、新しい科学技術やサービスの導入、情報の発信などを推進していかなければならない。そうした観点から今総会では、がん検診における新しい取り組みや検診手法などに関するシンポジウムを用意した」と述べた。

総会では、この企画意図を受けて、近年話題となっているメディカルツーリズム(医療観光)に関するシンポジウムが行われ、医療観光を推進

している観光庁や医療機関の担当者らが、取り組みの現状と課題について講演した。

また、消化器がん検診における先進的取り組みを紹介するシンポジウムでは、大腸3D-CT(仮想内視鏡)、大腸カプセル内視鏡、血清ヘリコバクター抗体とペプシンゲン法を組み合わせたABC分類、外科医からみた血清ペプシンゲン法、メタボローム解析技術を用いた腸がん検診をテーマに、それぞれの専門家が、その現状と展望を講演した。

このうち、大腸3D-CTによる大腸がん検診について講演した田嶋メディカルセンター幕張の永田浩一郎氏は、「大腸3D-CTは、検査時間が短時間、鎮静剤が不要、苦痛が少ない、偶発症が少ない、検査が容易、などの利点

がある一方、65以下の病変の検出が困難、治療ができない、医療被ばくがある、などの短所もある」と解説した上で次のように述べた。

「欧米では複数の大規模臨床試験が行われ、大腸3D-CTは有効な検査方法として米国の大腸がん検診ガイドラインにも掲載されている。しかし、日本と欧米とは内視鏡技術に差があることや病変の定義が異なることなどから、そのまま受け入れることは必ずしも妥当ではない。こうしたことから、現在わが国でも大規模臨床試験が行われており、その結果が期待されている」

総会ではこの他、がん検診の死亡率減少効果や女性特有のがん検診、PSA検診などをテーマとするシンポジウム、がん検診の精度管理や啓発方法に関するワークショップなどが行われた。

個人情報の取扱いについて

日頃より、東京都予防医学協会の機関紙「よぼう医学」をご愛読くださりありがとうございます。本会では、現在「よぼう医学」を送付させていただいている皆様について、送付に必要な情報(名前、住所、所属、役職など)を送付名簿として保持しております。これらの個人情報の収集、保存、利用につきましては、本会の個人情報保護方針に基づき、厳重な管理のもとに運用しております。その上で今後も継続して送らせていただきたいと思います。送付名簿から削除を希望される場合には、お手数ですが、広報室(電話03-3269-1131)までご連絡ください。

健康管理相談をお引き受けします

当センターの会員が事業所、学校、各種団体の健康管理をアドバイスいたします。

担当:江幡良晴 三輪祐一

お問い合わせ・ご相談は事務局まで(予約制)

健康管理コンサルタントセンター
事務局 東京都新宿区市谷砂土町1-2
(公財)東京都予防医学協会
電話 03-3269-1141

送付先の変更・中止について

送付先の住所変更・購読中止の場合には、変更内容を明記の上、本会広報室までお知らせください。

Eメール
thsa-koho@msj.biglobe.ne.jp
FAX 03-3269-7562

お電話(03-3269-1131)でも承っております。

表 成人における血圧値の分類 (mmHg)

分類	収縮期血圧	拡張期血圧
至適血圧	<120	かつ <80
正常血圧	<130	かつ <85
正常高値血圧	130-139	または 85-89
I度高血圧	140-159	または 90-99
II度高血圧	160-179	または 100-109
III度高血圧	≥180	または ≥110
(孤立性)収縮期高血圧	≥140	かつ <90

2009年日本高血圧学会ガイドライン

高血圧は、60歳を過ぎると日本を含めた各国で25年間約6割、80歳では8割以上がにわたって追跡した研究報告からわかる非常に多い疾患を示し、「最も死亡リスクが懸念される」男性では40代から、女性は更年期前後で発症する人が多い。

心疾患や脳血管疾患など重大な疾病の原因となる高血圧。自覚症状のないことから適切な予防や治療を行わずにいる人も少なくない。先頃行われた第48回日本循環器予防学会の市民公開講座「いつまでも元気であるために」では、学長を務める久代登志男日本本会医学部総合健診センター所長(写真)が高血圧対策の重要性を説いた。

「心不全患者の約割が高血圧を持っていていられる。さらに高血圧は、腎臓や認知症の原因となる脳卒中のリスクを最も高くする因子である。高血圧とつき合っていると、健康や人生を過ごす上で極めて重要な課題と力を込める。」

久代登志男所長は、血圧と冠動脈疾患死亡との関連を、ごす上で極めて重要な課題と力を込める。生活習慣を変えるのはなかなか難しいのだが、4千万人もいられる高血圧の人が減るには、脳卒中や心筋梗塞になる人も相当減り、医療費の削減にもつながるのではないかと、高血圧予防へのきめ細かな指導の大切さを訴えた。

「生活習慣を変えるのはなかなか難しいのだが、4千万人もいられる高血圧の人が減るには、脳卒中や心筋梗塞になる人も相当減り、医療費の削減にもつながるのではないかと、高血圧予防へのきめ細かな指導の大切さを訴えた。」



「心不全患者の約割が高血圧を持っていていられる。さらに高血圧は、腎臓や認知症の原因となる脳卒中のリスクを最も高くする因子である。高血圧とつき合っていると、健康や人生を過ごす上で極めて重要な課題と力を込める。」

「心不全患者の約割が高血圧を持っていていられる。さらに高血圧は、腎臓や認知症の原因となる脳卒中のリスクを最も高くする因子である。高血圧とつき合っていると、健康や人生を過ごす上で極めて重要な課題と力を込める。」

「病息災」高血圧

第48回日本循環器病予防学会 市民公開講座

話題



復員直後の国井長次郎氏

「多々の日本人が死んだ。生き残った者は死んでいった者には合わなかった。3年後、復員列車の車窓から見た悪夢の光景を見て、何か少いでも力になりたいと心に誓った。この青年こそ、われらの子。」

ルーツを求めて

その時、われわれの国井長次郎氏の若き日の姿である。歴史は多岐にわたる。その長い道のりが続く。この青年こそ、われらの子。この青年こそ、われらの子。この青年こそ、われらの子。

予防医学事業のこれまでとこれから

小山和作 日本赤十字社 熊本健康管理センター名誉所長



作日本赤十字社熊本健康管理センター名誉所長

生活環境の変化、少子高齢化、医療の進歩などにより、わが国の疾病構造は大きく変わった。生涯にわたる健康、健康寿命の延伸を図るために予防医学事業の果たす役割は大きい。この連載では、長年、予防医学事業に力を注いでいられた小山和作日本赤十字社熊本健康管理センター名誉所長に、戦後の予防医学事業の歴史を振り返り、その未来像について執筆していただいた。

簡単、低カロリー！ フローズンヨーグルト

1. 缶詰の果物を細かく刻み、アルミ容器に入れる

2. ヨーグルトと砂糖を加えて混ぜる

3. 1-2時間おきにかき混ぜながら、冷凍庫で凍らせる

☆おいしいのはもちろん、たったの93kcal。カロリー！

☆不足しがちなカルシウムの補給にも

☆乳製品の苦手な人でも食べやすい

ポイント

☆おいしいのはもちろん、たったの93kcal。カロリー！

☆不足しがちなカルシウムの補給にも

☆乳製品の苦手な人でも食べやすい

軽度の肥満になったため、健康診査の保健相談に呼ばれた江口さん。検査結果が徐々に悪くなっていることを経年データから確認しました。この機会に生活習慣を見直してみたいとお話すると、「最近、夜目部分の、あるいは先兆に閉塞してしまっている状態に、周囲の人から指摘されて気づくことが多い病気です。その名の通り、睡眠中に何度も呼吸が止まった状態が繰り返されます。睡眠時の無呼吸は多くの場合、空気の通り道である気道が狭くなることで起こります。肥満がある、などの周囲にも脂肪が沈着して気道を狭くする傾向があり、SASになりやすいと言われる病気です。肥満がますます増え、呼吸が止まると、無呼吸の起こる仕組みについて理解されたようでした。」

「でも、わざわざ病院に行く必要はないかもしれません。日々の生活の中で、呼吸が止まると、突然死のリスクを高める可能性も高まるので、早急に対応する必要があります。心臓血管疾患、脳血管疾患、糖尿病、高血圧、脂質異常症、睡眠時無呼吸症候群(SAS)が疑われます。」

生活習慣病予防のため、2ヶ月を目安に減量した方がよさそうと江口さん。しかし、「むしろ食事量は少ない方がいいかな」と食事には問題がないと思われていた。ところが、体重が増えてきている原因は何でしょうか。そこで生活習慣を振り返って見ました。

◆幸せな食卓 近頃は定年間近という時期もあり、だいぶ時間にゆとりが出てきて、家でゆっくり食事をするようになりました。奥さんは江口さんの健康を気遣い、話題のヘルシーレシピ本を参考に献立を立ててくれているそうです。食卓を確認してみると、主菜、副菜、サラダ、デザート、揚げ物、お菓子など、かなりカロリーの高いメニューが目立ちました。奥さんは「お菓子作りを凝らしています。特に、夕食後に食べるのが習慣となっていて、この間食の習慣を直すのが、減量に効果がありそうです。」

◆甘いひと時 職場では女性社員たちと昼食を摂りながら、スイーツを食べているのを見かけた江口さん。「スイーツの甘いお菓子作りを凝らしています。特に、夕食後に食べるのが習慣となっていて、この間食の習慣を直すのが、減量に効果がありそうです。」

江口さんは、運動習慣であり、実際に取り組みはなれて、運動強度が低く、実施しやすい運動であることがわかりました。また、「歩」以外の運動としては、ランニング、歩行機を増やしてみたいかな、と考えるようになった。江口さんには、運動習慣を身につけるために、歩行機を増やしてみたいかな、と考えるようになった。江口さんには、運動習慣を身につけるために、歩行機を増やしてみたいかな、と考えるようになった。

「生活習慣病予防のため、2ヶ月を目安に減量した方がよさそうと江口さん。しかし、「むしろ食事量は少ない方がいいかな」と食事には問題がないと思われていた。ところが、体重が増えてきている原因は何でしょうか。そこで生活習慣を振り返って見ました。」

「生活習慣病予防のため、2ヶ月を目安に減量した方がよさそうと江口さん。しかし、「むしろ食事量は少ない方がいいかな」と食事には問題がないと思われていた。ところが、体重が増えてきている原因は何でしょうか。そこで生活習慣を振り返って見ました。」

いびきと肥満 要注意



江口さんは、運動習慣であり、実際に取り組みはなれて、運動強度が低く、実施しやすい運動であることがわかりました。また、「歩」以外の運動としては、ランニング、歩行機を増やしてみたいかな、と考えるようになった。江口さんには、運動習慣を身につけるために、歩行機を増やしてみたいかな、と考えるようになった。

「生活習慣病予防のため、2ヶ月を目安に減量した方がよさそうと江口さん。しかし、「むしろ食事量は少ない方がいいかな」と食事には問題がないと思われていた。ところが、体重が増えてきている原因は何でしょうか。そこで生活習慣を振り返って見ました。」

「生活習慣病予防のため、2ヶ月を目安に減量した方がよさそうと江口さん。しかし、「むしろ食事量は少ない方がいいかな」と食事には問題がないと思われていた。ところが、体重が増えてきている原因は何でしょうか。そこで生活習慣を振り返って見ました。」

表 SASの臨床症状

- 覚醒時の症状
 - 日中の強い眠気(EDS)・知的能力の低下
 - 起床時の頭痛・頭重感
 - 性欲低下・インポテンツ
 - 性格変化・抑うつ状態
- 睡眠時の症状
 - いびき
 - 異常体動
 - 不眠・中途覚醒
 - 夜間頻尿

2010年「成人の睡眠時無呼吸症候群 診断と治療のためのガイドライン」睡眠呼吸障害研究会編より一部改変

「生活習慣病予防のため、2ヶ月を目安に減量した方がよさそうと江口さん。しかし、「むしろ食事量は少ない方がいいかな」と食事には問題がないと思われていた。ところが、体重が増えてきている原因は何でしょうか。そこで生活習慣を振り返って見ました。」

働くシニア！ 応援シリーズ 3

健康づくり・健康増進を支援するページ

「生活習慣病予防のため、2ヶ月を目安に減量した方がよさそうと江口さん。しかし、「むしろ食事量は少ない方がいいかな」と食事には問題がないと思われていた。ところが、体重が増えてきている原因は何でしょうか。そこで生活習慣を振り返って見ました。」

「生活習慣病予防のため、2ヶ月を目安に減量した方がよさそうと江口さん。しかし、「むしろ食事量は少ない方がいいかな」と食事には問題がないと思われていた。ところが、体重が増えてきている原因は何でしょうか。そこで生活習慣を振り返って見ました。」

「生活習慣病予防のため、2ヶ月を目安に減量した方がよさそうと江口さん。しかし、「むしろ食事量は少ない方がいいかな」と食事には問題がないと思われていた。ところが、体重が増えてきている原因は何でしょうか。そこで生活習慣を振り返って見ました。」

「生活習慣病予防のため、2ヶ月を目安に減量した方がよさそうと江口さん。しかし、「むしろ食事量は少ない方がいいかな」と食事には問題がないと思われていた。ところが、体重が増えてきている原因は何でしょうか。そこで生活習慣を振り返って見ました。」

「生活習慣病予防のため、2ヶ月を目安に減量した方がよさそうと江口さん。しかし、「むしろ食事量は少ない方がいいかな」と食事には問題がないと思われていた。ところが、体重が増えてきている原因は何でしょうか。そこで生活習慣を振り返って見ました。」

「生活習慣病予防のため、2ヶ月を目安に減量した方がよさそうと江口さん。しかし、「むしろ食事量は少ない方がいいかな」と食事には問題がないと思われていた。ところが、体重が増えてきている原因は何でしょうか。そこで生活習慣を振り返って見ました。」

第244回ヘルスケア研修会 生活習慣病と睡眠障害

高血圧、糖尿病などの悪化と 睡眠不足の関係が明らかに



講演の冒頭、井上雄一教授は、「日本人の平均睡眠時間は、30年ほど前は8時間、今は、7時間ほど短くなっている」と前置きし、国内外の研究結果を示しながら、睡眠と

健康のためには、良質な睡眠が欠かせない。しかし、日々のストレスや忙しさなどから、よい睡眠がとれていない人も少なくない。また、近年、睡眠不足と高血圧や糖尿病、肥満、動脈硬化などの生活習慣病との関係がさまざまな研究により明らかにされつつある。こうした中、7月11日、東京・千代田区で開催された第244回ヘルスケア研修会(主催・健康管理コンサルタントセンター、本会)では、東京医科大学の井上雄一教授(写真)が「生活習慣病と睡眠障害」と題して講演した。

は7時間を切っているとき、1時間ほど短くなっている」と前置きし、国内外の研究結果を示しながら、睡眠と

制するアドレナリンの分泌が多くなり、血糖値がなかなか下がらない状況が生じる。このため7時間の睡眠時間を基準とすると、5時間未満の場合、糖尿病の発症リスクは2.5倍に上がるとされる。こうした影響に加えて、睡眠不足になると、食欲を促進する働きのあるホルモン『グレリン』が増加し、食欲を抑える働きのあるホルモン『レプチン』が減少することから、空腹感が増し、食欲が

必要睡眠時間には個人差があるとしながらも、まずは生活を改善して各人に必要な睡眠時間を確保するよう指導するべきだと述べた。一方、睡眠の質については、明らかな騒音などに配慮した就寝環境が大切だと語った。その上で、「睡眠不足の原因に、睡眠障害(入眠障害、中途覚醒など)や睡眠時無呼吸症候群(SAS)などが疑われる場合、治療が必要となる」として、睡眠障害のタイプに応じた睡眠薬の使用方法、SASの特徴や治療法などについて解説した。この他、講演では睡眠と病の関係について説明し、次のように述べた。「不眠を訴える人の2〜3割にうつ病がみられる。また、慢性的な不眠がうつ病を招きやすいことが明らかになってきている。不眠を早期発見、早期治療し、うつ病や自殺の予防に役立てて欲しい」。最後に井上教授は、「睡眠について治療が必要な場合は、日本睡眠学会のホームページ(<http://www.jsr.jp/>)に掲載されている睡眠の専門医療機関を受診し、診断、治療することが望ましい」とした。

東京都では、がん検診の受診率向上を図るため、中高年層を主な対象とした普及啓発事業に取り組んでいる。これまでの調査でわかっている、未受診理由に対する意識変容を狙ったメッセージをさまざまな方法で発信し、受診につなげる意向だ。具体的には、①映像作品の放映②普及啓発イベント③ラ

穴進して、太りやすくなる」さらに井上教授は、短時間睡眠が動脈硬化などのリスクを上昇させる仕組みについても解説し、「短時間睡眠は、メタボリックシンドロームのリスクを増加させ、生活習慣病になりやすくなる」と述べた。睡眠の量と質を十分に確保することが必要だ」と強調。

東京都のがん検診 受診率向上普及啓発 事業に協力 本会



「東京都予防医学協会賞」 PKU親の会で表彰

本会では、1974年からフェニルケトン尿症(PKU)などを対象にしたスクリーニング検査を開始。77年以降は東京都からの委託を受けて都内で出生した新生児についてこの検査を行っている。今年度から、より多くの病気を発見できるタンデムマス(タンデム質量分析計)を使用した検査を行うことになり、母子保健の向上に大きく期待されている。

今年度から、より多くの病気を発見できるタンデムマス(タンデム質量分析計)を使用した検査を行うことになり、母子保健の向上に大きく期待されている。

今年度の総会では「年代別フォローアップ」が行われ、①小学生以下の患者②中学生以上の患者③中学生以上の患者の家族の3グループに別れて、悩みや問題、体験の語り合いなどが行われた。

新生児マス・スクリーニングは、治療が可能な先天性代謝異常症などを症状が出る前に発見し、速やかに治療を開始して合併症を予防するのが



右から受賞者と北川照男本会理事長

今年度の総会では「年代別フォローアップ」が行われ、①小学生以下の患者②中学生以上の患者③中学生以上の患者の家族の3グループに別れて、悩みや問題、体験の語り合いなどが行われた。

2 予防医学 相談室より

胆のうポリープとは？

「胆のうポリープ」という所見から「がん」を連想する受診者が少なくありません。

ポリープとはラテン語で「いぼ、タコの足」という意味です。そういう形をした胆のうの壁の病変を胆のうポリープと言います。胆のうポリープの発生頻度は約7%ですが、実は、その大部分が良性のポリープ、つまりコレステロールポリープなのです。コレステロールポリープとは、マクロファージ(白血球の一種)が胆汁中のコレステロールを食べ、その残渣物が胆のうの壁に堆積したものです。コレステロールポリープが「がん化」することはほとんどありません。その大きな特徴は、①多発する②胆のうの壁にくっつく③面積が少ない「狭基性」である④形が桑の実に似ている⑤の3つです。また、コレステロールポリープの約10%は大きな

「胆のうポリープ」という所見から「がん」を連想する受診者が少なくありません。その大きな特徴は、①多発する②胆のうの壁にくっつく③面積が少ない「狭基性」である④形が桑の実に似ている⑤の3つです。また、コレステロールポリープの約10%は大きな

第30回 全国情報統計 研修会が開催

予防医学事業中央会傘下の支部で情報処理や統計業務に携わる担当者らを対象とした第30回全国情報統計研修会が8月30日、31日の2日間、鳥取市のホテルで開催され、約80人が参加した。

研修会では、担当する業務分野別のグループディスカッションや全体討論などが行われた。

このうち、「ミスを防ぐための成績作成処理を目的として」と題した全体討論(進行:原島隆史本会統計事務部長)では、ミスを防いで、減らすための方法について、さまざまな意見が交わされた。

従来のCAVI・ABIに加え、 末梢動脈疾患(PAD) 診断機能を強化!

血圧脈波検査装置(CAVI/ABI) VaSera VS-1500Aシリーズ

医療機器承認番号: 22100BZX00762000



●TBI専用ユニット(ポンプ内蔵)で高性能を実現

新たに開発した足趾血圧ユニットTPU-15(ポンプ内蔵)により、脈波計測感度をあげることによってTBI計測精度を大幅に上げました。
*足趾血圧ユニット(TPU-15)を付属しないVS-1500AE/ANもあります。

●負荷ABI機能の追加

フクダ電子は独自のABI負荷装置VSL-100(オプション)を開発しました。更に負荷ABIの解析ソフトウェアを充実。



〒113-8483 東京都文京区本郷3-39-4 TEL (03) 3815-2121 (代) <http://www.fukuda.co.jp/>
お客様窓口 ☎ (03) 5802-6600 / 受付時間: 月~金曜日(祝祭日、休日を除く) 9:00~18:00
●医療機器専門メーカー **フクダ電子株式会社**